U2−2024−**専門多肢**

試　験　問　題

注　意　事　項

1. 問題は **60 題**(**65 ページ**)あります。受験する区分に応じ、次のとおり解答してください。

○　**矯正心理専門職区分**

問題は必須問題 20 題(No. 1 ～No.20)と選択問題 40 題(No.21～No.60)に分かれています。選択問題については**任意の 20 題**を選択の上、必須問題と合計して **40 題**を解答してください。

なお、選択問題については、20 題を超えて解答しても超えた分については採点されません。

○　**法務教官区分、保護観察官区分**

No.21～No.60 の全ての問題(**40 題**)を解答してください。

No.　1～No.20 の問題には解答しないでください。

2. 解答時間は **2 時間 20 分**です。

3. この問題集は、本試験種目終了後に持ち帰りができます。

4. 本試験種目の途中で退室する場合は、退室時の問題集の持ち帰りはできませんが、希望する方には後ほど渡します。別途試験官の指示に従ってください。なお、試験時間中に、この問題集を切り取ったり、転記したりしないでください。

5. 下欄に受験番号等を記入してください。

第 1 次試験地	試験の区分	受験番号	氏　　名

指示があるまで中を開いてはいけません。

途中で退室する場合……本試験種目終了後の問題集の持ち帰りを　　**希望しない**

No. 1～No. 20

（矯正心理専門職区分）

No. **1**～No. **20** は**必須問題**です。これらの問題について、**全てを解答**してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

（法務教官区分、保護観察官区分）

No. **1**～No. **20** は矯正心理専門職区分の必須問題です。**これらの問題については解答しないでください。**

【No.　1】 次は、脳神経系に関する記述であるが、Ａ～Ｄに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

なお、文中の ［　　］ については設問の都合上伏せてある。

著作権の関係のため、掲載できません。

	A	B	C	D
1.	thalamus	limbic	midbrain	brain stem
2.	thalamus	limbic	amygdala	hippocampus
3.	thalamus	cerebral cortex	midbrain	motor area
4.	frontal lobe	limbic	midbrain	hippocampus
5.	frontal lobe	cerebral cortex	amygdala	motor area

【No.　**2**】 次は、記憶に関する記述であるが、Ａ～Ｄに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

ただし、文頭の大文字と小文字は区別しないものとする。

著作権の関係のため、掲載できません。

著作権の関係のため、掲載できません。

	A	B	C	D
1.	Schacter and Tulving（1994）	episodic	autobiographical	working
2.	Schacter and Tulving（1994）	episodic	semantic	procedural
3.	Schacter and Tulving（1994）	flashbulb	semantic	working
4.	Baddeley and Hitch（1974）	episodic	autobiographical	procedural
5.	Baddeley and Hitch（1974）	flashbulb	autobiographical	working

【No.　**3**】 目撃証言に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 実際には見たり聞いたりしていないことを“想起する”ことを、虚記憶(false memory)という。虚記憶研究の方法の一つであるDRMパラダイムでは、提示されない特定の単語(例えば「悪魔」)を連想させる単語(例えば「黒、サタン、怖い、天使、魔女」)を多く学習させる。すると、提示されなかった特定の単語を誤って想起することがある。視覚的にイメージすること、存在しない行為や出来事を繰り返し想像することなどによって虚記憶が生成される。
2. 何らかの事件の目撃後に、事件に関連する、誤りを含む情報(誤誘導情報)に接した場合、本来の事件の記憶の正確さが損なわれることがあり、これを事後情報効果という。これは、誤誘導情報が事件にとって重要なことに関わるものである場合や、誤誘導情報に出会う可能性を強く意識した場合に起こりやすい。事後情報効果が生じるメカニズムとして、事後情報によって本来の目撃記憶が上書きされるという説や、本来の目撃記憶と事後情報の起源が混同され、事後情報の起源を本来の目撃記憶に帰属させてしまうという説などがある。
3. 目撃者の注意が犯人の持っている凶器に集中し、犯人が凶器を持っていない場合に比べて犯人の人相や着衣などの周辺情報が記憶されやすくなる現象を、凶器注目効果という。人は、感情的にネガティブなもの(死体など)やポジティブなもの(赤ちゃんの笑顔など)に接すると、自動的に注意が引き付けられ、特定の感情が引き起こされる。凶器を見て強いネガティブ感情が喚起されると、その状況に関する情報を詳細に処理しようとするため、結果として、これらの凶器やその周辺状況である犯人の顔などの記憶が促進される。
4. 言語隠蔽効果とは、ある人物の顔を見た後でその特徴を言語化すると、言語化しなかったそれ以外の情報の記憶が抑制され、顔の再認成績が良くなる現象を指す。人物を含むビデオ映像を提示し、その後、登場人物の顔を言語化した参加者は、言語化しなかった参加者に比べて、その後の顔の再認記憶が向上した。この現象は、人物の顔という視覚情報特有のもので、味覚や触覚など、他の感覚モダリティの刺激の再認成績では見られない。
5. 子どもなどを対象に、聴き取りが与える負担を最小限に抑え、誘導が生じないように配慮しながら、事実を特定できるように話を聴く面接を司法面接と呼ぶ。司法面接では、録画と録音によって正確な情報を確保するとともに、子どもが何度も面接を受けなくても済むように図る。司法面接は質問内容や文言が明確に決まっておらず、習熟には訓練が必要である。面接ではクローズドクエスチョンを重視し、暗示や誘導がないように気を付けることが必要である。

【No.　**4**】 情動や共感の発達・機序に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 養育者との交流の質にかかわらず、養育者と子どもの両方が物理的に同じ空間にいることで、子どもの情緒的利用可能性(emotional availability)が高まり、探索行動が促される。例えば、見知らぬ一人の女性がいる部屋で、15 か月齢児と母親を一定時間、一緒に過ごさせた R. N. エムディらの実験では、新聞を読み、子どもとの関わりに応じないよう指示された母親の群と、子どもを見守り、関わりに応じるよう指示された母親の群とで、子どもの快の情動の表出や探索行動に差が確認されなかったことが報告されている。
2. M. ルイスの基本情動理論では、怒り、悲しみ、喜び、興味といった一次的情動は生得的に備わっており、3 歳頃の自己意識の成立により、照れや恥、罪悪感等の二次的情動が出現するとされる。3 歳頃の子どもにおける鏡像認知課題に対する反応と、実験者が悲しみを演じているときの反応を観察すると、鏡像認知の可能な子どもほど共感反応が示されやすく、自己意識の成立に伴い共感が出現することが示唆されている。
3. 感情制御は、共感や援助行動を抑制するとされる。苦境にある他者と感情を共有することで観察者に生じる感情反応として、「共感的関心(empathic concern)」と「個人的苦痛(personal distress)」があり、他者の苦痛に対する覚醒度が低い場合には、共感的関心の段階にとどまるため、実際の援助行動には至りにくい。他方、覚醒度が高まるほど個人的苦痛が生じ、援助行動が促されやすくなる。
4. シミュレーション仮説は、他者の心を理解するために、他者の心に関する概念や一般理論に基づくイメージを必要とするという理論を指す。この仮説は、脳機能研究において、他者の行為による心情や心の動きをイメージしたときにヒトの運動野のミラーニューロンが活性化したことから提唱された。ミラーニューロンは、他者の意図や行為の理解の基盤である可能性が示唆されている。
5. 10 か月齢児を対象に、二つの図形が「攻撃する・攻撃される」という関係に見えるような映像(攻撃的相互作用条件)を見せた後、実物の図形を提示し、どちらに手を伸ばすかを調べると、攻撃された側の図形に手を伸ばすことが多いが、相互作用がない条件では、二つの図形の選好に違いは見られなかった。これは、10 か月齢児が攻撃する者よりも攻撃される者(犠牲者)を好んだことを示しており、0 歳台の乳児において既に、同情的な態度の萌芽のある可能性が示唆されている。

【No.　**5**】 パーソナリティと健康に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. タイプA行動パターンは、M. フリードマンとR. H. ローゼンマンによって提唱された、アルコール依存になりやすい者に特徴的なパーソナリティである。タイプA行動パターンの特徴としては、対人的な敵意の低さ、時間的切迫感や焦燥感の強さ、達成に対する持続的な欲求をもっていることが挙げられる。
2. タイプB行動パターンは、P. E. シフネオスによって提唱された、心身症に特徴的なパーソナリティである。タイプB行動パターンの特徴としては、仕事のストレスにさらされた際に、その状況について適切に理解しているにもかかわらず、敵意などの感情表出が過剰になる傾向があるとされる。
3. タイプCパーソナリティは、L. テモショックらによって提唱された、強迫性を有し、身体的な愁訴の多い者に特徴的なパーソナリティである。タイプCパーソナリティの特徴としては、自己犠牲的になるあまり、怒り感情や不安感情が強く表出される傾向があることが挙げられる。
4. タイプDパーソナリティは、J. デノレットらによって提唱された、抑うつを特徴にもつパーソナリティであり、冠状動脈性心疾患との関連が指摘されている。タイプDパーソナリティの特徴としては、不安、怒り、緊張などのネガティブな感情を経験しやすく、その感情を対人関係において表出する傾向がある。
5. ビッグ・ファイブモデルは、パーソナリティを神経症傾向、外向性、開放性、誠実性、協調性の５因子から記述する。誠実性は健康との関連が指摘されており、誠実性が高い者ほど、死亡率が低いとされる。その要因として、不健康な食事や危険な運転といった健康のリスクとなる行動をとらない傾向があることが考えられている。

【No.　**6**】 子どもの気質について分類したA. トマスとS. チェスの研究に関する記述Ａ～Ｄのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

Ａ．彼らは、「気質」を子どもがどのように行動するかという行動上の特徴として捉え、何ができるかという「能力」や、なぜするかという「動機」とは明確に区別した。彼らは、ニューヨーク近郊の生後２、３か月の子どもを対象として研究を開始し、その親への継続的な面接調査等による縦断的研究を行った。研究の結果、彼らは、活動水準、接近性、気の散りやすさといった九つの気質的特徴を見いだした。

Ｂ．彼らの研究では、子どもの気質のタイプのうち、初めての状況に積極的で、環境の変化への順応も良く、養育者が育児のストレスを感じにくい「扱いやすい子ども（easy child）」の割合が最も少なかった。また、障害や虐待といった資質・環境上の要因から、一貫した気質的特徴を示さない子どもを「扱いにくい子ども（difficult child）」と分類し、「扱いにくい子ども」の半数以上に、青年期に行動上の問題が見られることを示した。

Ｃ．彼らの分類における「時間がかかる子ども（slow-to-warm-up child）」は、睡眠や排せつといった身体リズムの周期性が不規則で、環境の変化に順応しにくく、情動的反応が強い。一方、彼らは、「適合の良さ（goodness of fit）」という概念を提唱し、子どもの気質と周囲の環境への適合の良さが発達に重要であるとした。彼らの研究では、「時間がかかる子ども」は、一度環境に適応すると安定するため、後年の適応上の問題がほとんど見られなかった。

Ｄ．彼らは研究結果をまとめ、気質は、２歳までに観測され、強く遺伝によって規定される特性であるとした。また、気質には長期的な連続性が見られ、乳児期の気質と成人期の行動特徴との関連が強いことを示した。その後、彼らは研究を更に発展させ、子どもの気質の次元として、情動性（emotionality）、活動性（activity）、なだめやすさ（soothability）の三つを想定し、これらを生得的なパーソナリティ特性と捉えて尺度開発を行い、「EAS 尺度」を作成した。

1. A
2. B
3. A、D
4. B、C
5. C、D

【No.　**7**】 パーソナリティに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. パーソナリティをいくつかの典型的な例に当てはめて分類したものを類型論と呼ぶ。類型論は、ギリシャ時代にヒポクラテスによって考えられたのが最初といわれている。ヒポクラテスは、精神病患者の体型の違いに注目し、躁うつ病(双極症)の患者には肥満型の人が多く、統合失調症の患者には闘士型の人が多く、てんかんの患者には細長型の人が多いと考えた。
2. E. シュプランガーは、人生における価値の置き方に焦点を当て、人を、経済型、審美型、宗教型、権力型、社会型、友愛型の 6 類型に分類した。審美型に分類される人は、繊細な感情をもち、敏感であり、美しいものに最高の価値を置くという特徴をもち、社会型に分類される人は、人と異なる行動を避け、集団として協調性をもって物事を進めようとする特徴をもつ。
3. C. G. ユングは、人間のタイプを心的エネルギーが向かう方向によって、内向型と外向型に区別した。内向型の人は自己の内界に関心や重要度を置き、内気で気難しく、引っ込み思案などの特徴をもつ。一方、外向型の人は好奇心旺盛で外界の物事に興味をもつが、他者と意見が合わない場合に他者に攻撃的な態度を示す。C. G. ユングは、人は成長するにつれて、内向型か外向型に性格傾向がまとまり、思考と行動のパターンが固定化されると考えた。
4. A. アドラーは、個々のパーソナリティの独自性と統合性を強調し、人間性心理学を提唱した。A. アドラーは、人間は劣等感を補償するために、より強く、より完全になりたいという意思をもち、努力すると考えた。この劣等感とは、他者と比較して自分が劣っていることを自覚したときに生じる感情で、他者よりも優れた人間になるよう努力することが、人間の人格を成長させると考えた。
5. K. ホーナイは、幼い頃の対人関係において、自分が世界の中で孤立し無力と感じる「基本的不安」が生じると、不安から身を守るために様々な神経症的な要求が強くなると考えた。それによって生じる態度を依存的な態度(moving toward people)、攻撃的な態度(moving against people)、孤立する態度(moving away from people)の三つの態度に類型化し、基本的不安が神経症的な性格の形成につながると考えた。

【No.　**8**】 動機づけに関する記述Ａ～Ｄのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

Ａ．自己決定理論では、目標を達成したいという欲求、環境と効果的に関わりたいという欲求、他者や社会と関係を築きたいという欲求を心理的欲求として位置付けている。自己決定理論を提唱したE. L. デシらは、投影法などの手法を使ってパーソナリティの測定を行い、社会的欲求のリストを作成した。

Ｂ．内発的動機づけは、活動すること自体が目的となっており、達成すると有能感が得られるような行動を引き起こす。R. W. ホワイトは、人が環境と効果的に関わる能力をコンピテンスと呼び、コンピテンスを中心とした動機づけ概念を提唱した。そして、コンピテンスの欲求は、知識の拡充や運動操作の習熟といった動機づけを生じさせると論じた。

Ｃ．動因低減説では、学習が生じるには行動の方向性を決める目標となる外的な刺激である「動因」が重要であり、動因が大きくなることが習慣の形成にとって必要だとされている。C. L. ハルは、行動が生じる理由を動因と習慣の和の式で表し、動因と習慣のどちらかがあれば行動は起きるとした。

Ｄ．達成動機は、達成に対する接近傾向と失敗に対する回避傾向の差によって決まると考えられており、課題場面において、失敗回避傾向より達成接近傾向が大きいほど行動が生じやすくなる。J. W. アトキンソンは、達成接近傾向は、「達成欲求」と「主観的成功確率」と「成功の誘因価」を掛け合わせたものになるとした。

1. Ａ
2. Ｂ
3. Ａ、Ｃ
4. Ｂ、Ｄ
5. Ｃ、Ｄ

【No.　**9**】 L. コールバーグは、次のような「ハインツのジレンマ」と呼ばれる道徳的な葛藤場面を考案し、このジレンマ場面に対する反応を分類することにより、３水準６段階の道徳性の発達段階を提唱した。

Ａ～Ｅは、彼が提唱した各発達段階の名称と、各段階にある者がハインツの行動に反対する際の反応例であるが、彼の理論に基づき、Ａ～Ｅを発達段階が低い方から順に並べたものとして最も妥当なのはどれか。

＜ハインツのジレンマ＞

ある女性が特殊ながんのため死にかけていた。その特効薬が開発されたが、薬屋では製造コストの 10 倍の値段が付けられている。その女性の夫であるハインツは、あらゆるところからお金を借りるが、薬の値段の半分のお金しか集まらなかった。ハインツが薬屋に妻の病状を説明して頼み込んでも、薬屋は値引きや後払いの交渉に応じてくれない。途方に暮れたハインツは妻のために、薬屋に薬を盗みに入った。

Ａ：＜段階＞法と秩序指向

＜反応例＞薬を盗んでいるときは、死にもの狂いだから、ハインツは悪いことだと気付かないかもしれない。しかし、罰を受けて刑務所に入ってから、自分が悪いことをしたと分かり、法を犯したことに対して、いつも罪の意識を感じることになるだろう。

Ｂ：＜段階＞道具主義的な相対主義指向

＜反応例＞薬を盗んでもそれほど刑期は長くない。しかし、もしハインツが捕まったら、彼が刑務所を出る前に妻は病気で死んでしまうかもしれない。

Ｃ：＜段階＞対人的同調あるいは良い子指向

＜反応例＞盗みが発覚したら、妻や友人はハインツを泥棒だと思って悲しむだろう。彼は自分がどれだけ不名誉なことをしたか考えて嫌になり、家族や友人に顔向けできなくなる。

Ｄ：＜段階＞罰と服従への指向

＜反応例＞薬を盗んだら捕まって刑務所に入れられるので、ハインツは薬を盗むべきではない。もし逃げても、警察が捕まえに来るのではないかといつもびくびくしながら生きていくことになる。

Ｅ：＜段階＞社会契約的な法律指向

＜反応例＞法を破ることで、ハインツは、社会での地位と尊敬を失うことになる。感情に流されて、長い目で物事を見ることを忘れると、後になって自分の過ちに気付き、自尊心も失ってしまうだろう。

1. C→B→D→A→E
2. C→D→A→B→E
3. D→A→B→C→E
4. D→B→C→A→E
5. D→C→A→B→E

【No.　**10**】　子どもの認知と言語の発達に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 心の理論とは、他者の心情や欲求、意図、情動などへの帰属に基づいて、行為や発言を説明したり、予測したり、解釈したりする能力の基礎のことで、D. プレマックと G. ウッドラフの乳幼児の研究から発展した。また、心の理論を測定することを目的とした誤信念課題のうち、代表的なものに S. バロン＝コーエンらが開発した「サリーとアン課題」がある。サリーとアン課題は、サリーとアンの表情を区別し、表情と感情を結び付けて相手の心の状態を推察できるかどうかを問う課題である。
2. J. ピアジェは、子どもの認知発達を感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期の四つの段階に分けた。子どもの前に三つの山の立体模型を置いて、子どもの位置とは異なる位置から見ると山がどのように見えるかを問う三つ山実験では、前操作期の子どもは他者の視点に立った空間認知によって、自身の位置から見える風景とは異なる回答をする。この実験から、前操作期には自己中心性が克服され、脱中心化された状態に到達することが示唆された。
3. L. S. ヴィゴツキーは、子どもの自己中心語は、伝達の手段である外言が思考の手段である内言へと発展していく過程で出現すると考えた。また、自己中心語が増えるのは、難しい課題に直面した場合などであり、自己中心語が課題解決を促進するとした。そのほか、L. S. ヴィゴツキーは知的発達を、自力で問題を解決できる水準と、他者からの援助や共同によって達成が可能になる水準の二つに分けて考え、両者の間に存在する領域を発達の最近接領域と呼んだ。
4. N. チョムスキーは、周囲の大人の会話を模倣し、それが強化されることで言語を習得するという学習理論の考え方を発展させ、後天的に言語習得装置を獲得すると考えた。N. チョムスキーによると、全ての文の背後には、文章の意味を決定する表層構造と、具体的な音形の決定に関わる深層構造の二つの構造があるとされ、変形文法において表層構造と深層構造の変形の規則が定式化されるという。
5. 著作権の関係のため、掲載できません。

【No. **11**】 消費者行動に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

ア．消費者が購買を決定するまでの意思決定に関するモデルのうちよく知られているのは、AIDMA と AISAS である。AIDMA は消費者の心理プロセスを Attention（注意）→ Interest（関心）→ Decision（決定）→ Memory（記憶）→ Action（行為）の５段階と想定する。インターネットの普及により新しく提案された AISAS は、Attention（注意）→ Internet（インターネット）→ Save（保存）→ Action（行為）→ Share（共有）の５段階と想定する。

イ．消費者は、購入商品の種類やそれらを買うときの状況に応じて、異なった次元の価値尺度をもつ別々の財布から支払うかのように行動する。この行動は心理的財布と呼ばれる概念で説明される。例えば普段の食費は数十円でも節約するのに、旅先では数千円の食事をしても支払の痛みを感じにくいといったことがある。サービスの購入やその消費経験の時期と支払時期が分離するクレジットカードでの支払は、支出に伴う心理的痛みを減少させ、心理的財布を拡大し、購買行動を促進するとされる。

ウ．商品選択という消費者の意思決定の仕方には、できるだけ情報収集をして、「効用」を最大にする選択肢を選ぼうとする最大化原理と、全ての情報を検討せず、ある一定の満足が得られる選択肢が見付かればそれを選んで意思決定を終えようとする最適化原理がある。前者の原理に従う人（追求者：maximizer）の方が、後者の原理に従う人（満足者：satisficer）よりも、選択後の満足感が高い。

エ．R. E. ミリマンは、店舗内の音楽（BGM）の効果を調べるため、アメリカの中規模のスーパーマーケットでフィールド実験を行った。その結果、店舗内でアップテンポの BGM を流したときの方が、スローテンポの BGM を流したときよりも、店内の移動ペースが速くなり、日々の総売上高が伸びることを示した。また、同様の実験をレストランでも実施したところ、アップテンポ時の方がスローテンポ時に比べて滞在時間が長くなり、アルコールの消費量が増えることを示した。

1. イ
2. ウ
3. ア、ウ
4. ア、エ
5. イ、エ

【No.　**12**】　集団に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 集団は、その人が所属する「内集団」と、それ以外の「外集団」に分けられる。内集団の成員に対しては、ステレオタイプ的な認知や内集団バイアス（内集団びいき）が生じやすい。内集団バイアスとは、内集団の成員の多様な特性を無視して、典型的な特性を成員全員が均質的に共有していると認知することである。
2. 同調とは、個人が他者からの期待や集団規範を意識して、自らの行動をそれらに合わせることをいう。M. ドイッチらによれば、同調が起こる理由には、客観的判断が難しい状況で「他者に頼って正しい選択をしたい。」という欲求がもたらす情報的影響と、「他者から受け入れられたい。」あるいは「他者から拒否されたくない。」という欲求に基づく規範的影響があるとされている。
3. 心理学的な「場」についての研究の代表的なものには J. L. モレノの集団力学（group dynamics）の理論がある。集団での意思決定が、個人での意思決定に比べて極端な方向に流れがちになる現象は集団極性化現象と呼ばれており、この現象には、慎重で保守的な決定を下す傾向であるパラダイムシフトや、危険な決定を下す傾向であるリスキーシフトといったものがある。
4. S. E. アッシュは、多数派の意見に少数派が影響される現象を例証する実験を行った。彼の実験では、実験対象者以外の、あらかじめ実験者から指示を受けた協力者が全員誤った解答をした場合、実験対象者全員が少なくとも 1 回はその誤った解答に同調した。また、協力者の人数を変化させて実験を繰り返したところ、協力者が 10 人になったときに最も同調率が高くなり、それ以上増えても同調率には頭打ち傾向が見られた。
5. P. G. ジンバルドーは、少数派の意見に多数派が影響される現象を例証する実験を行った。この実験では、６人集団の中に実験協力者が２人入り、その２人が一貫して誤った答えを続けると、残りの４人の中にも誤った判断を下すという影響を受ける人が現れた。こうした少数派の影響は、浸透するのは速いが、表面的な態度変化にとどまった。

【No.　**13**】　WAIS-Ⅳに関する記述として最も妥当なのはどれか。

著作権の関係のため、掲載できません。

【No.　**14**】　心理検査に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. P-F スタディは、日常的な欲求不満を経験している場面が描かれたイラストを提示し、吹き出しが空欄となっている人物について、「もし自分がその場にいたらどのように答えるか。」と教示して回答させる検査である。分析・解釈においては、受検者の反応をアグレッションの型と方向の 2 次元に分けてスコア化する。アグレッションの型は、内向型－外拡型－不定型の 3 種類であり、アグレッションの方向は、障害優位－自我防衛－要求固執の 3 種類である。
2. ロールシャッハ・テストは、受検者にインク模様等の図版を見せ、「何に見えるか。」を回答させる検査である。図版は全部で 10 枚あり、白黒図版 5 枚、有彩色図版 4 枚、白紙図版 1 枚で構成される。片口法や包括システム、阪大法など複数の分析手法が知られているが、多くの手法に共通して採用されている反応内容の分類の一つとして「P 反応」がある。これは、一般にほとんど見られない、その受検者に特有の個性的な反応のことを指す。
3. TAT は、ある状況を描いた絵図版を提示し、その図版に関連した物語を作成させる検査である。考案者の S. R. ハサウェイと J. C. マッキンレイが作成した原版は、年齢や性別によって使用する図版が区別されており、図版の状況は、自我阻害場面と超自我阻害場面の 2 種類に分けられる。H. A. マレーによる欲求－圧力分析に基づく解釈が代表的であるが、解釈方法には、ベック法やクロッパー法など複数の流派がある。
4. DAM(Draw-A-Man Test)は、人物の頭から足の先までの全身像を描いてもらうことで、知的水準を評価する描画法であり、F. L. グッドイナフによって考案された。描かれた人物について、評定項目に従って採点を行い、精神年齢に換算した上で、知能指数を算出する。受検者に大きな負担を掛けずに実施できる上、結果の評価も比較的簡便であり、短時間で知的発達のおおまかな指標を得ることができる検査である。
5. SCT は、R. B. キャッテルによって知的統合力を測定する検査として開発され、その後、パーソナリティを測定する投影法検査として発展した。「私は…」という同一の刺激語を 20 問提示し、受検者にその刺激語に続いて 20 通りの異なる回答を記載することを求め、自己意識や自己概念を多面的かつ重層的に測定することができる。スコアリングや数量的分析を用いた定まった解釈方法はなく、反応内容や言葉の出現順等を踏まえながら解釈を行う。

【No. **15**】 次は、マインドフルネスに関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

マインドフルネスとは、約2,600年前のブッダの時代の話し言葉であったパーリ語の「サティ」を英訳したものであり、漢語では「念」、日本語では「気付き」と訳されることもある。マインドフルネスは、今この瞬間に焦点を当て、[A] それに注意を向け続けるありようである。日本の禅をはじめとして、マインドフルネスはアジア諸国で古くから実践されてきた。

マインドフルネスを医療領域で活用するきっかけとなったのは、1970年代に [B] が慢性疼痛患者に対して8週間のグループ療法であるマインドフルネスストレス低減法を実践したことである。マインドフルネスストレス低減法は、マインドフルネス瞑想、ヨガ、心と身体の関係についての教育などから構成される。

マインドフルネスは当初は慢性疼痛患者などに対して実施されていたが、Z. シーガル、M. ウィリアムズ、J. ティーズデールは、うつ病の再発予防にマインドフルネスを導入した [C] を開発・実施した。[C] は、グループ形式の心理療法であり、寛解期のうつ病患者に対してマインドフルネス瞑想などを中心とした介入を実施する。マインドフルネスを組み込んだ他の心理療法としてはS. ヘイズらによるアクセプタンス＆コミットメント・セラピー(ACT)がある。ACTでは、[D] が大きくなるように①アクセプタンス、②脱フュージョン、③「今、この瞬間」との接触、④文脈としての自己、⑤価値、⑥コミットされた行為の六つのコア・プロセスを促進する。

	A	B	C	D
1.	感情調整しながら	J. カバットジン	マインドフルネス認知療法	認知的反応性
2.	感情調整しながら	J. カバットジン	弁証法的行動療法	心理的柔軟性
3.	感情調整しながら	E. ジェイコブソン	弁証法的行動療法	心理的柔軟性
4.	判断することなく	J. カバットジン	マインドフルネス認知療法	心理的柔軟性
5.	判断することなく	E. ジェイコブソン	マインドフルネス認知療法	認知的反応性

【No. **16**】 STAIR/NST は、複雑性トラウマをもつ成人を対象に新たに開発された、マニュアルに基づく認知行動療法である。複雑性 PTSD のトラウマ治療の観点を踏まえ、次の記述のうち、最も妥当なのはどれか。

1. STAIR/NST は、段階的治療を特徴とし、治療の第 1 段階では、トラウマ記憶の処理に、第 2 段階では、感情調整や対人スキルの習得に焦点を当て、問題となるトラウマに焦点化した作業を行った上で、社会的・感情的な生活スキルを強化する手順で進められる。ランダム化比較試験により、その治療効果が確認されており、治療の安定性の観点から、セッション数や手順の変更は、原則として認められていない。
2. STAIR/NST の治療構造は、J. L. ハーマンの提唱した「有力化(empowerment)」や、安全の確立、外傷的記憶の想起、コミュニティへの統合といった心的外傷の回復の展開と一致する。第 1 段階において、患者が自らの虐待の記憶に圧倒されながらも、虐待歴や虐待の話を詳細に話そうとするときには傾聴し、苦痛を伴う感情体験は想起しないよう治療者が適切に制止することで、トラウマ記憶の処理が安全に進むと考えられている。
3. STAIR/NST の第 2 段階の手順は、PE(Prolonged Exposure Therapy：持続エクスポージャー療法)をもとに作られている。第 2 段階には、恐怖・恥のほかに喪失のテーマが含まれている。喪失体験を扱い、保護してくれる存在の喪失、他者への信頼感の喪失、無邪気さの喪失といった、幼少期の喪失を検討することは、現在の生活に与える過去の影響や将来における過去の役割を理解するために重要だと考えられている。
4. STAIR/NST の感情調整スキルは、怒りや恐怖、恥といった対人関係の破綻、社会的ひきこもりをもたらすネガティブな感情の抑制に焦点化しており、ポジティブな感情は脅威となることが少ないため、対象として扱わない。対人スキルの習得では、対人関係のパターンを取り上げ、対人関係にまつわるスキーマの同定及び修正に取り組むほか、ロールプレイの手法も取り入れられている。
5. STAIR/NST では、強固な治療同盟が、ネガティブな感情を調整する力を促進させ、PTSD 症状の抑制を予測することが実証されている。短期間で治療的な効果を促進するために、治療者は、対象者に対して積極的な発言や支持はせずに、中立的姿勢を維持することが望ましく、セッションの中で支配－被支配的な関係や、他者とのパワーバランスをめぐる葛藤のテーマは扱わないこととなっている。

【No.　**17**】　睡眠と不眠障害に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 著作権の関係のため、掲載できません。

2. DSM-5-TR によれば、概日リズム睡眠・覚醒障害群の診断基準には、持続性または反復性の睡眠分断が含まれる。基本的には、概日機序の変化、または内因性概日リズムと、その人の身体的環境または社会的または職業的スケジュールから要求される睡眠－覚醒スケジュールとの不整合による。この障害群の 1 つとして、睡眠開始と覚醒時間が後退している様式であり、希望する、または慣習的に受け入れられている早い時刻での入眠と覚醒ができない睡眠相後退型がある。
3. 睡眠段階の測定には、脳波、眼電図、皮膚電気活動の 3 指標を基本とする睡眠ポリグラフ検査(ポリソムノグラフィ)が用いられる。睡眠段階には、レム睡眠とノンレム睡眠があり、両者は寝ている間は交互に出現する。睡眠段階の中で最も睡眠が深いものがレム睡眠であり、レム睡眠では夢見体験の報告が多くなされる。
4. 不眠障害に対する心理的介入では、科学的根拠に基づいた睡眠衛生教育を行う。睡眠衛生教育では、規則正しい三度の食事や規則的な運動習慣、就寝時刻を一定に保つこと、朝起きた際には日光を浴びること、夜に寝られない場合は日中の活動に支障が出ないように 2 時間程度の昼寝をすることなどがある。
5. 不眠障害に対する認知行動療法では、刺激制御法と睡眠制限法が用いられる。刺激制御法では、寝る前の喫煙やカフェイン摂取などの刺激物の摂取を制限し、ぬるめの入浴などを行うように教示する。睡眠制限法では、寝室の利用に制限をかけ、寝室は睡眠と性行為のみに使用し、眠くなった時のみ寝室を使うように教示する。

【No.　**18**】　双極症に関する記述Ａ～Ｄのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

Ａ

Ｂ

著作権の関係のため、掲載できません。

Ｃ．双極症の場合、病相が一度しかないという場合はまれで、一生のうち再発を繰り返す症例が90％以上を占めるとされる。通常、躁エピソードは抑うつエピソードよりも長く続く場合が多い。双極症の自殺リスクは高くはないものの、抑うつエピソードに交代し、躁エピソード期間に行った不適切な言動に自責的となった場合には留意が必要とされる。

Ｄ．双極症は、うつ状態と躁状態が交互に表れる双極症Ⅰ型と、軽躁エピソードと診断基準には至らない程度の抑うつ症状を示す双極症Ⅱ型に大別される。双極症Ⅰ型は、自傷・他害のおそれからしばしば入院治療を必要とし、診断において、抑うつエピソードの確認を必須とする。一方、双極症Ⅱ型の軽躁エピソードは、躁エピソードと同様の症状はあっても、社会的・職業的機能障害を起こすほどではないとされる。

1. Ｂ
2. Ｄ
3. Ａ、Ｂ
4. Ａ、Ｃ
5. Ｃ、Ｄ

【No. **19**】 次は、心理測定法に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

人は外界の存在をそのまま知覚できるわけではない。一般に、周囲の条件が一定ならば、提示刺激の強度が小さいほど知覚しにくい。感覚の生起に必要な最小限の刺激量を刺激閾と呼ぶ。

刺激閾の測定には古典的精神物理学的測定法がよく用いられる。この測定法には、観察者自身が刺激量を操作する「調整法」、提示刺激の刺激量を試行ごとに徐々に大きく若しくは小さくし、観察者の判断が特定の変化を示す刺激量を求める「極限法」、様々な刺激量の刺激をランダムに提示し、それらへの応答を集計する「恒常法」の三つがある。測定値を得るために手間や時間が最も掛かるのは [A] である。なお、より効率のよい測定法も多く開発されている。

検出できる刺激量の差の最小値を弁別閾と呼ぶ。基準となる刺激量が大きいほど弁別閾も大きくなる。一般に、基準となる刺激量と弁別閾の大きさはほぼ比例することが分かっており、これを [B] の法則という。この法則は以下の式で表されるが、後にこれを改良した法則も提案された。

$$\Delta S/S = K$$

（ただし、ΔS；刺激 S における弁別閾、S；刺激 S の刺激量、K；定数）

反応時間を用いた測定は、刺激が提示されてから反応するまでの時間を測定するものである。実験状況を操作することによる反応時間の変化で、刺激を知覚してから反応をするまでに遂行される心理的・生理的処理過程を推測することができる。反応時間データの分布は、通常、反応時間の [C] 方に裾の長い非対称の形をしている。そこで、パラメトリックな統計的検定が行えるよう、歪んだ分布を左右対称の正規分布の形に近付けるような変換を行うことがある。代表的なものは、対数変換や逆数変換である。

態度測定では質問紙法が最も多く用いられている。古くは、支持するかしないかという２択法であったが、そこに程度を導入した尺度が開発された。あるテーマについて、両極端なものから中立的なものまで幅広い意見を集め、これを質問項目として、予備調査によってその項目の値を決めておき、その項目への同意に得点を与える形で態度得点とする [D] が考案された。しかし、その手続は煩雑なものであったため、後には程度差を設けた回答選択肢を導入したリッカート法が普及した。

	A	B	C	D
1.	調整法	ウェーバー	短い	サーストン法
2.	極限法	スティーヴンス	長い	ガットマン法
3.	極限法	ウェーバー	短い	ガットマン法
4.	恒常法	スティーヴンス	短い	ガットマン法
5.	恒常法	ウェーバー	長い	サーストン法

【No. **20**】 次は、ある研究の概要及びその結果を示した表である。重回帰分析を用いた研究結果の解釈に関する記述として最も妥当なのはどれか。

＜研究の概要＞

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、マスクの着用が広まった。マスクを着用する程度(以下、「マスク着用」)に関しては、年齢、性別、パーソナリティ、感染拡大前からマスクを着ける習慣があったかどうか(以下、「マスク習慣」)、自分自身が新型コロナウイルス感染症に感染しないために予防としてマスクを着用しようと思う程度(以下、「自己の感染予防」)、他人に新型コロナウイルス感染症を感染させないために予防としてマスクを着用しようと思う程度(以下、「他者への感染予防」)など、様々な要因が関係してくることが予想できる。

そこで、研究者が 1,000 名を対象に横断調査を行った。「マスク着用」を基準変数とし、上記の年齢、性別、パーソナリティ、「マスク習慣」、「自己の感染予防」、「他者への感染予防」を説明変数とした重回帰分析を行ったところ、以下のような偏回帰係数、標準偏回帰係数の値となり、重相関係数 R は 0.53 となった。

説明変数	偏回帰係数	標準偏回帰係数	測定方法
切片	3.68***	−0.09**	
年齢	0.01	0.01	
性別	0.21***	0.20***	0 = 男性、1 = 女性
パーソナリティ	0.02	0.03	7 件法(1 ～ 7)、2 項目、得点範囲 2 ～14
「マスク習慣」	0.16***	0.12***	3 件法(1 ～ 3)、1 項目、得点範囲 1 ～ 3
「自己の感染予防」	0.15***	0.25***	7 件法(1 ～ 7)、1 項目、得点範囲 1 ～ 7
「他者への感染予防」	0.24***	0.32***	7 件法(1 ～ 7)、1 項目、得点範囲 1 ～ 7

$p < 0.01$、*$p < 0.001$

注)基準変数の「マスク着用」は、7 件法(1 ～ 7)、1 項目で測定した。

1. 重回帰分析は、基準変数が量的変数、説明変数が複数の量的変数の非線形モデルである。重回帰分析において偏回帰係数が統計学的に有意になれば、直ちに変数間に因果関係があるとみなす。本研究では、性別、「マスク習慣」、「自己の感染予防」、「他者への感染予防」の偏回帰係数が統計学的に有意であるので、これらは「マスク着用」の原因と結論付けられる。
2. 決定係数は、基準変数の観測値と説明変数の観測値との間の相関係数である重相関係数 R を２乗したものである。決定係数は分散説明率とも呼ばれ、基準変数の分散を説明変数によってどのくらい説明できるかを表している。本研究の決定係数を計算すると 0.38 となり、「マスク着用」の分散の 38 % を説明できていると解釈できる。
3. 基準変数と各説明変数の間の相関係数の絶対値が非常に大きい場合に、偏回帰係数の推定値が不安定になることがあり、これを多重共線性と呼ぶ。多重共線性は、分散拡大係数（variance inflation factor: VIF）などの指標で確認できる。もし多重共線性が疑われる場合は、説明変数間で相関が弱い変数を取り除いた分析を行う必要がある。
4. 偏回帰係数は、他の説明変数の値が一定である場合のある変数の影響度を表す。本研究における「マスク習慣」の偏回帰係数は、他の説明変数の値が一定の場合の「マスク着用」への影響度を示し、その効果は「自己の感染予防」よりも大きい。「マスク着用」を予測する場合は、切片は用いずに、各説明変数に偏回帰係数を乗じたものの合計を用いる。
5. 本研究における標準偏回帰係数の結果から、統計学的に有意な効果をもつ説明変数は、性別、「マスク習慣」、「自己の感染予防」、「他者への感染予防」である。「自己の感染予防」の標準偏回帰係数は、他の説明変数の値が一定の場合の「マスク着用」への影響度を示し、その効果は「マスク習慣」よりも大きい。

No. 21～No. 60

（矯正心理専門職区分）

No. **21**～No. **60** は**選択問題**です。これらの問題のうちの**任意の 20 題**を解答してください。

なお、20 題を超えて解答しても、超えた分については採点されません。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

（法務教官区分、保護観察官区分）

No. **21**～No. **60** は**必須問題**です。これらの問題について、**全てを解答**してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No.　**21**】　学習に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

ア．E. C. トールマンは、数日間にわたるネズミの迷路学習の実験で、ゴールにたどり着くと毎回報酬を得られるネズミと報酬を得られないネズミ、初めは報酬を得られなくても数回目から報酬が得られるようになるネズミの行動を比較した。その結果、途中から報酬が得られるようになったネズミは、報酬が得られるようになってから急速に誤りの数が減少し、最終的には毎回報酬を得られていたネズミと同じような遂行成績を示した。この結果から、E. C. トールマンは、ネズミが報酬のない時期でも迷路の探索によって認知地図を学習したと考えた。

イ．P. M. フィッツらは、技能学習を大きく三つの段階に分けて捉えることができるとした。第１の認知段階では、技能に係る個々の動作の練習を反復することによって、スムーズな一連の動作として身に付けることができるようになる。第２の連合段階では、状況に応じて技能や知識を調節し、知識が再表象化されて効率化が行われる。そして、第３の自動化段階では、一連の動作がまとまったものとされ、意識することなく動作を遂行できるようになると考えた。

ウ．E. L. ソーンダイクは、ネコを用いた問題箱実験で、ネコが問題箱内で特定の行動を行うと扉が開いて脱出し、餌を得ることができる状況を設定した。ネコは最初、床をひっかいたり立ち上がったりするが、途中何もせずに視野の中を見回し、突然思い付いたように特定の行動をとり、脱出して餌を手に入れた。この結果から、E. L. ソーンダイクは、ネコが洞察学習によって正しい行動を学習したと考えた。

エ．A. バンデューラらは、人形を用いた実験で、あるグループの児童には大人が人形を攻撃している映像を見せ、他のグループの児童には攻撃行動のない映像を見せた。その後、その人形が置かれている部屋でそれぞれのグループの児童を遊ばせたところ、攻撃行動を観察したグループの児童は、観察しなかったグループの児童よりも多くの攻撃行動を示した。この結果から、A. バンデューラらは、児童が強化を与えられなくても対象を観察することで学習が成立したと考えた。

1. ア、イ
2. ア、ウ
3. ア、エ
4. イ、ウ
5. イ、エ

【No.　**22**】 M. S. ガザニガや R. W. スペリーは、文字や図をごく短時間提示する装置(タキストスコープ)を用い、分離脳の患者の左右の視野に文字刺激や絵刺激を 0.1 秒間提示する実験を行った。実験では、例えば、図のように、刺激を提示するスクリーンよりも奥に、スクリーンに隠れるようにいくつかの物が置かれた。実験に対する分離脳の患者の一般的な反応に関する記述として最も妥当なのはどれか。

なお、右視野に提示された情報は脳の左半球で、左視野に提示された情報は右半球で処理される。

1. 右視野に文字刺激が瞬間提示されると、何も見えないという報告があり、左視野に文字刺激が瞬間提示されると、表示された単語を正しく報告することができた。また、右視野に文字刺激が瞬間提示された場合、スクリーンの下から提示された単語の示すものに手を伸ばすよう求められると、単語の示す実物を正しく選ぶことができた。
2. 右視野に絵刺激が瞬間提示されると、何も見えないという報告があり、左視野に絵刺激が瞬間提示されると、表示された絵刺激の名称を正しく報告することができた。また、右視野に絵刺激が瞬間提示された場合、スクリーンの下から絵刺激の示すものに手を伸ばすよう求められても、絵の示す実物を正しく選ぶことができなかった。
3. 左視野に文字刺激が瞬間提示されると、スクリーンの下から左手を伸ばして、そこに置いてある種々の事物の中から、触覚だけを頼りに文字刺激の示すものを正しく選ぶことができた。しかし、このときに、患者に今していることが何かを言語報告するよう求めると、自分が何をしているのか答えることができなかった。
4. 左視野に絵刺激が瞬間提示されると、スクリーンの下から左手を伸ばして、そこに置いてある種々の事物の中から、触覚だけを頼りに絵刺激の示すものを正しく選ぶことはできなかった。しかし、このときに、患者に今していることが何かを言語報告するよう求めると、自分が何をしているのか答えることができた。
5. 二つの文字刺激が、それぞれ右視野と左視野とで同時に瞬間提示され、何が見えたかを尋ねられると、言語報告では、左視野に提示された単語が報告された。また、見えた文字刺激を右手で指差すよう求められると、左半球で制御される右手も、左視野に提示された文字刺激を指差した。

【No. **23**】 学習や動機づけに関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

ア．統制の位置(locus of control)とは、J. B. ロッターによって提唱された概念である。J. B. ロッターは、自分に起こる出来事を内的な要因にコントロールされていると認知することを内的統制、外的な要因にコントロールされていると認知することを外的統制と呼んだ。こうした内的統制型・外的統制型は比較的安定したパーソナリティのようなものと考えられており、統制の位置の個人差を測定する尺度も開発されている。

イ．F. ハイダーは、統制の位置(内的－外的)、統制可能性(可能－不可能)、安定性(安定－不安定)の三つの次元から、達成課題での成功と失敗の原因として仮定した能力、努力、課題の難しさ、運の四つの要因を整理し、原因帰属理論を提唱した。統制不可能で安定的な内的要因は「努力」、統制不可能で不安定な外的要因は「運」である。

ウ．A. バンデューラは、課題達成場面における個人のもつ目標志向性である達成目標を、自己の能力の向上や成長を目的とするパフォーマンス目標と、能力への高い評価を得ることを目的とするマスタリー目標の二つに大別した。マスタリー目標をもつ人にとっての失敗は、自分の能力の低さを意味することから、能力の低さを他者に隠そうとして新しいことに挑戦することを避けたり、努力しなくなったりし、無気力に陥りやすい。

エ．学習性無力感とは、M. E. P. セリグマンによって報告されたもので、回避や対処が不可能な嫌悪事象を反復して経験することにより、その後の解決可能な課題に関する学習が阻害される現象を指す。失敗の原因を内的で安定的なものに帰属させる人は学習性無力感に陥りやすく、学習性無力感は抑うつを引き起こしやすいといわれている。

1. イ
2. エ
3. ア、ウ
4. ア、エ
5. イ、ウ

【No. **24**】 防衛機制に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 逃避とは、性的な考えや攻撃性といった、本能・衝動を伴う自己の考えや感情を意識の外に締め出そうとすることである。この心理的作用により、現実が生み出す不安や苦痛を否定し、現実に向き合うことを避けようとするとされている。
2. 投影とは、自分以外のものがもつ諸属性を自分の中に取り入れ、自分自身のものにしようとすることである。この心理的作用により、例えば、青年期の性欲や攻撃性の高まりを覆い隠すために哲学や宗教に没頭するというように、本能・衝動をコントロールするために情緒的な問題をあえて抽象的に論じるとされている。
3. 知性化とは、葛藤などを伴う言動を正当化するために、社会的に承認されそうな理由付けを行うことである。この心理的作用により、例えば、親が子どもへの拒否感を否定するために子どもに対して過保護になるように、自分の中にある情動や態度が、意識や行動面ではその反対のものに置き換わるとされている。
4. 反動形成とは、自己評価の低下が予想され、不安を感じさせる状況から逃げ出し、それを避けることである。この心理的作用により、例えば、子どもが弟や妹の誕生後に夜尿や指しゃぶりといったものを再発させることがあるように、以前の未熟な段階の行動に逆戻りしたり、未分化な思考や表現の様式になったりするとされている。
5. 昇華とは、置き換えを基本とする機制であり、社会的に許容されない本能的な欲求を、社会的に容認可能な行動に変容させて充足させることである。この心理的作用により、例えば、性的欲求を芸術作品の制作へ、攻撃的欲求をスポーツ活動へ向けるといったように、本能的な欲求を物事に取り組むエネルギーに変えるとされている。

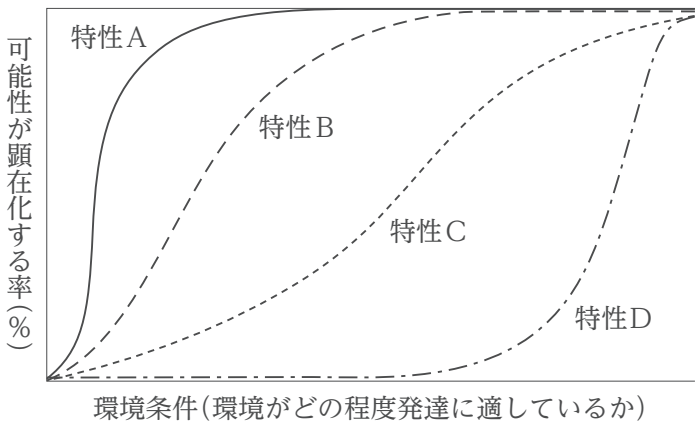
【No.　**25**】　次は、A. ゲゼルと H. トンプソン（Gesell, A. & Thompson, H., 1929）が行った実験の概要である。実験に基づく、A. ゲゼルの主張に関する記述として最も妥当なのはどれか。

＜実験の概要＞

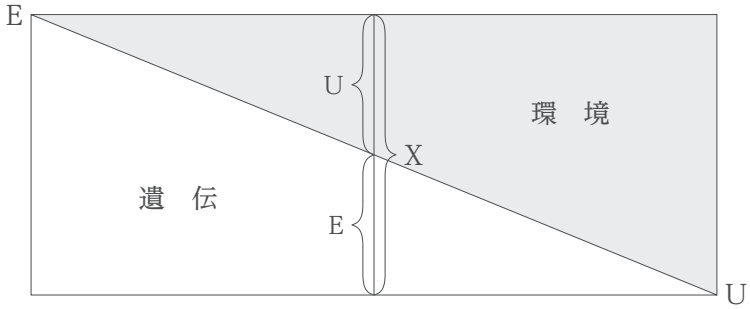
A. ゲゼルらは、遺伝的に同一である一卵性双生児の子どもに対し、それぞれ異なる時期に訓練を行った。一卵性双生児のうちの片方（A）に対し、生後 46 週から生後 52 週になるまで 6 週続けて、毎日階段を上る訓練を行わせた。訓練の結果、Aは、26 秒で階段を上ることができるようになった。

一卵性双生児のうちのもう一方（B）は、生後 53 週になって初めて階段上りの訓練を受けたところ、訓練開始時は階段を上るのに 45 秒かかったが、その後、 2 週間訓練を受けたBは、55 週目には、10 秒で階段を上りきることができ、同時期のAを追い越す成績を上げるようになった。

1. 彼は、実験に基づき、人間の行動は、基本的な反射と条件づけによって獲得されると考え、訓練や経験こそが人の行動を形成するという環境優位説を提唱した。彼は自身の著書において、「健康な 12 人の子どもと、望ましい育児環境があれば、どんな専門家にでも泥棒にでも育てることができる。」という趣旨の記述をしている。
2. 彼は、実験に基づき、生後間もない時期の経験や学習が、発達に大きな影響を与えるとして、初期経験や刻印づけという概念を提唱し、生後間もない頃の特別な時期の学習を重要視した。また、特定の学習が生じる期間である「敏感期」の存在を提唱し、敏感期には、その時期を過ぎると必要な学習が成立しなくなる非可逆性があるとした。
3. 彼は、実験に基づき、発達には神経系の成熟が重要であるという成熟優位説を主張した。彼によれば、訓練や学習が効力を発揮するには、適切なレディネスが備えられている必要があり、レディネスを待たずに行われる学習は十分な効果をもたらさないとした。
4. 彼は、実験に基づき、図Xのような遺伝と環境の関係を示した上、心身の発達には、遺伝と環境の両要因が関連しており、環境の適切さがある水準を超えれば、遺伝的素質に応じたその特性の発現が見られるが、環境の適切さがその水準に達しない場合は、その特性の発現は大きく阻害されるという輻輳説を主張した。
5. 彼は、実験に基づき、図Yのような遺伝と環境の関係を示した上、遺伝的要因と環境的要因双方の影響を受けて、一定の特性が形成されるが、遺伝的要因と環境的要因はそれぞれ別々に作用し、個々の特性ごとに遺伝と環境の関係が関与する割合が異なるという環境閾値説を主張した。


可能性が顕在化する率（%）
特性A
特性B
特性C
特性D
環境条件（環境がどの程度発達に適しているか）

図X


E
U
環　境
X
遺　伝
E
U

図Y

【No. **26**】 次は、愛着(attachment)に関する記述であるが、ア～エに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

J. ボウルビィは、乳幼児と母親などの養育者との人間関係が親密かつ継続的で、しかも両者が満足と幸福感に満たされるような人間関係が精神衛生の基礎であるとした。また、特定の対象に対する特別の情緒的結び付きを愛着と定義し、乳幼児期の母子関係の相互作用の欠如を［ア］と呼んだ。［ア］は、乳児院や養護施設に入り、母親との接触を断たれた子どもに関する［イ］の研究を発展させたものである。［イ］の研究では、母親と離れて育った乳幼児は、精神発達や対人関係の問題を抱えやすいことが指摘されている。

J. ボウルビィは、愛着は４段階を経て発達すると考え、乳幼児期に形成された愛着は次第に内在化し、内的作業モデルとして存在し続け、養育者以外の他者との人間関係の基礎となると考えた。

愛着に関連する実験としては、［ウ］の代理母親実験や、M. D. S. エインズワースらのストレンジ・シチュエーション法が挙げられる。ストレンジ・シチュエーション法は、八つのエピソード場面で構成され、母親との分離と再会の場面における乳児の反応に基づき、乳児の愛着の安定性を四つのタイプに評価する実験法である。親から離れると不安を示し、再会時には親を歓迎して遊びを再開するのはＢタイプで、親との分離で激しく泣き、再会時には身体接触を求めるが、同時に怒りや拒否を表出するのは［エ］である。

	ア	イ	ウ	エ
1.	マターナル・ディプリベーション	ホスピタリズム	D. W. ウィニコット	Dタイプ
2.	マターナル・ディプリベーション	ホスピタリズム	H. F. ハーロウ	Cタイプ
3.	マターナル・ディプリベーション	分離－個体化理論	H. F. ハーロウ	Aタイプ
4.	相対的剥奪	ホスピタリズム	D. W. ウィニコット	Aタイプ
5.	相対的剥奪	分離－個体化理論	D. W. ウィニコット	Cタイプ

【No. **27**】 次は、リスクとその認知に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

災害や事故など、様々な危険(ハザード)による被害を受ける可能性は誰もがもっている。このような被害や損害を受ける可能性に関して「リスク」という用語が用いられることが多い。全米研究評議会の定義では、「リスク」とは被害の生起確率と被害の重大性の [A] のこととされている。

「リスク認知」とは、人々がリスクについてどのように考えているか、その知覚を指す。P. スロヴィックは、一般市民のリスク認知は客観的に定義されるリスクとは異なる二つの因子に基づいていることを示した。第1因子は「恐ろしさ」であり、被害を制御できないこと、恐ろしいという感情反応をもたらすこと、壊滅的な大惨事となることなどが関連する。第2因子は「未知性」であり、被害の発生プロセスが観察できないこと、リスクがまだ科学的に理解されていないこと、被害の影響が現れるのが遅いことなどが関連する。例えば、たばこは恐ろしさが [B] 、未知性が低いリスクとみなされる。

一般市民のリスク認知は、様々なバイアスの影響も受けている。[C] ヒューリスティックは、過去の記憶している事例や身近な例の思い出しやすさから事象の発生可能性の度合いを推定する方法である。例えば、国産の野菜と外国産の野菜のどちらを買うかと考えたときに、朝に見た外国産の野菜の農薬値に関するニュース報道を思い出し、外国産の野菜の健康リスクの高さを直感的に判断し、その結果、国産の野菜の方を選択して購入する、というような例が当てはまる。

また、[D] は、感覚的な評価を手がかりとして対象に関する判断や意思決定を行うことである。現実にリスクの高い技術が用いられるのは、それに見合うだけのベネフィットがあるからであり、つまり様々な科学技術などの有用性とリスクの間には正の相関があると考えられる。しかし、一般の人々の判断では、ベネフィットが高い対象はリスクが低く、リスクが高い対象はベネフィットが低いという負の相関を示しやすい。それは、その技術を見聞きしたときに抱く感情に沿って、リスクとベネフィットが推定されるからだと解釈できる。

	A	B	C	D
1.	積	高く	利用可能性	気分一致効果
2.	積	低く	利用可能性	感情ヒューリスティック
3.	積	低く	係留と調整	気分一致効果
4.	和	高く	利用可能性	感情ヒューリスティック
5.	和	低く	係留と調整	気分一致効果

【No.　**28**】　心理検査に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 発達検査は、知的な能力の側面だけではなく、身体運動能力や社会性の発達なども含めて、発達水準を測定する検査である。新版K式発達検査 2020 は、「姿勢・運動」、「認知・適応」、「言語・社会」の 3 領域の発達の把握が可能で、各領域と全領域の発達年齢(DA)と発達指数(DQ)が算出できる。0 歳児を除き、受検者の興味の持続を考慮して検査項目の順序を選びながら進めることが特徴である。
2. 知能検査の原型は、ビネー・シモン式知能検査で、優秀な人材を選抜することを目的に開発された。A. ビネーと T. シモンは知能検査の結果を精神年齢(MA)として示し、その後、W. シュテルンが精神年齢と生活年齢(CA)を比較することで知能の発達をより安定して示すことができると考え、知能指数(IQ)を提唱した。知能指数は、生活年齢を精神年齢で除して 100 を乗じることで算出できる。
3. 作業検査法は、受検者に一定の作業をさせ、それに対する作業態度や実施結果からパーソナリティを測定する方法で、受検者の言語能力に依存しないという利点がある。代表的な作業検査法である内田クレペリン精神検査は、数字と対になった記号を素早く書き写す検査である。判定では、誤答は扱わず、作業量と単位時間当たりの作業量の変化である作業曲線を指標として総合的に判断する。
4. 神経心理学検査は、脳の損傷や認知症などによって生じた知能、記憶、言語などの高次脳機能の障害を評価するためのテストである。ベンダー・ゲシュタルト・テストは、赤のインクで「みどり」と書かれたカードのように、インクの色と文字の意味が不一致のカードが提示され、受検者にインクの色を答えさせる課題である。ベンダー・ゲシュタルト・テストは、実施に時間を要するため、受検者の負担が大きいことに留意する必要がある。
5. 受検者の特徴を幅広い視点からアセスメントするために、心理検査、面接、行動観察の三つを組み合わせて実施することをテストバッテリーという。テストバッテリーを組むときは、意識の層と無意識の層のどちらもが捉えられるように留意する。また、受検者を多角的、多層的に捉えるために、できる限り多くの心理検査を実施することが求められる。

【No.　**29**】　心理療法に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 内観療法は、吉本伊信によって考案された心理療法であり、浄土真宗の「身調べ」という精神修養法に由来する。養育者などの身近な人物との関わりを、「してもらったこと、して返したこと、迷惑を掛けたこと」の三つのテーマに沿って具体的に想起させる。「集中内観」では、基本的に約１週間、研修所等に宿泊しながら内観を進め、定期的な面接が行われるが、内観の内容は詮索されず、話したいことだけを面接者に報告すればよいとされる。
2. 森田療法は、森田正馬が考案した心理療法であり、開発当初は、非行少年や不登校児など主に学校不適応を来した子どもを治療対象としていた。治療は、軽作業期、重作業期、生活訓練期の全３段階で進められる。軽作業期は、食事や排せつのほかは終日寝て過ごさせ、「生きたい、勉強したい」といった建設的な方向に精神エネルギーを向けさせることで、行動改善を図るための準備を行う期間である。
3. 臨床動作法は、森谷寛之が考案した訓練法であり、対人関係や社会適応に困難を抱える者に対して、会話や自己主張の仕方など、他者と良好な関係を築くために必要な社会的スキルや具体的行動を習得させることを目的としている。ロールプレイなどで、実際に体を動かして様々な状況を体験することに重きを置いており、良いところを褒める、見て学ぶなど、行動理論やモデリングの考え方をベースにしている。
4. 箱庭療法は、河合隼雄が、子どもが遊びの中で世界を表現するという「世界技法」として創始し、その後、M. ローエンフェルドらがその手法を学んで発展させ、世界各地に広がった。遊びの要素が強く、適用範囲は 18 歳以下の子どもとされる。砂の入った木箱と多数のミニチュアが用意され、基本的には、セラピストが設定した特定の風景や具体的な場面等のテーマに沿って、クライエントがミニチュアを置いていく。
5. コラージュ療法は、成瀬悟策によって発想・確立された芸術療法の一種で、クライエントになぐり描きの線を描いてもらい、そこに何が見えるかイメージを投影して更に描画を進め、絵を完成させていく。紙とペン以外の道具が不要で、言語表現力が乏しい者や絵が苦手な者にも実施できる上、セラピストとクライエントの間の関係作りにも大きな役割を果たすなど、簡易で適用範囲が広い心理療法である。

【No.　**30**】　データの視覚的表現に関する記述Ａ～Ｄのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

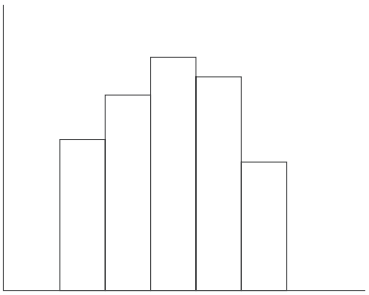
Ａ．度数分布とは、データのとる値と、その値をとったデータの個数(度数)を対応させた度数の散らばりの様子である。ヒストグラムは、柱状グラフとも呼ばれ、図ａのように、度数分布をグラフで表したものである。特に質的変数の度数分布を視覚的に表現するのに便利である。ある変数の階級を横軸にとり、そこに含まれる度数を縦軸にとる。各柱の幅は全体の幅により固定されており、隣り合った柱の隙間を空けてはいけない。

Ｂ．幹葉表示はデータの視覚的表現の一つの形態であり、図ｂのように、数字によって作成される。線の左側の幹は階級を表し、右側の葉は幹に含まれるデータを示す。例えば、20 人のテスト得点を表した図ｂでは、線の左側の数字が十の位を、線の右側の数字が一の位を表している。幹葉表示の最大の特徴は、データ分布の特徴を捉えることができると同時に、全てのデータの具体的な値の情報を読み取ることもできるということである。

Ｃ．箱ひげ図は、図ｃのように、最小値、第１四分位数、平均値、第３四分位数、最大値という五つの統計量を用いて、データの分布の様相を視覚的に表現したものである。ひげの両端はそれぞれ最小値と最大値を、箱の下辺と上辺はそれぞれ第１四分位数と第３四分位数を表す。箱ひげ図は、異なる条件間でデータを比較するのに便利である。仮に平均値と標準偏差が条件間で等しいデータを用いた場合でも、データが四分位範囲内にくまなく分布しているのかといった、分布の詳細な形の違いを比べることができる。

Ｄ．クロス集計表は、表ｄのように、二つ以上の変数の値の組合せごとに度数をまとめたものである。二つの変数がそれぞれＩ個、Ｊ個のカテゴリーをもつとき、Ｉ行×Ｊ列の表に、Ｉ×Ｊ通りの組合せごとの度数を記入すると作成できる。例えば、変数Ａが３個、変数Ｂが４個のカテゴリーをもつときは、３×４クロス表などとも呼ぶ。各行の合計度数と各列の合計度数を周辺度数と呼び、クロス集計表に周辺度数も加えてつくることが多い。周辺度数は、行変数と列変数の度数分布になっている。

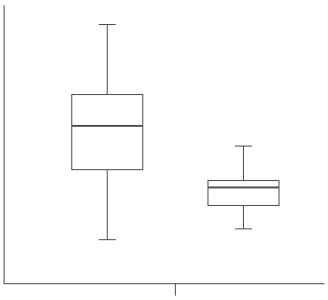
図a



図b

著作権の関係のため、
掲載できません。

図c



表d

	1	2	…	J	
1	●●	●●	…	●●	●●●
2	●●	●●	…	●●	●●●
⋮	⋮	⋮	…	⋮	⋮
I	●●	●●	…	●●	●●●
	●●●	●●●	…	●●●	●●●

1. A、B
2. A、C
3. B、C
4. B、D
5. C、D

【No.　**31**】 J. J. ルソーの教育思想等に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 人間は、正常な出産でも１年程度早産せざるを得ない仕組みになっており、他の高等な哺乳類に比べて、極めて未熟な状態で生まれてくるという特徴をもっていると考え、このように人間が生理的に未発達な状態で生まれてくることを「生理的早産」と呼んだ。
2. 人間が理性的存在としての人間になるためには、実践的教育ないし道徳的教育が必要であると説き、その意味において、人間は「教育されなければならない唯一の被造物」であり、教育によって初めて人間になることができると『教育学』の中で述べた。
3. 子供期の固有の意義を強調するとともに、子供の自然な成長力や活動性に従う「消極教育」を唱える『エミール』を発表し、これにより従来の子供観を大きく転換させたとして、「子供の発見者」とも呼ばれた。
4. 広くあらゆる知識を網羅する汎知学（パンソフィア）の樹立を目指し、『大教授学』を著して「あらゆる人に、あらゆる事柄を教授する、普遍的な技法」を追求するとしたほか、子供向けの世界初の絵入り教科書である『世界図絵』を著した。
5. 教育を、経験の意味の増加や連続的な経験の再構成・再組織と捉え、子供たちの協同的な学びの活動を教育にとって重要なものと位置付け、そのような考えに基づいてシカゴ大学に創設した実験学校における教育実践の報告を『学校と社会』にまとめた。

【No. **32**】 次は、我が国における大正期の教育に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

我が国において、大正期には、児童の自主性・自発性の重視、個性の尊重などが提唱され、［ A ］の主張に基づく教育改革が展開された。これは「大正新教育（大正自由教育）運動」と呼ばれ、児童の存在を中心に据えた教育実践が展開されるよう、全国各地で「新学校」が設立された。その「新学校」の代表的なものの一つとして、沢柳政太郎の創設した［ B ］が挙げられる。

また、この学校教育の改革の流れに呼応して、自由画や学校劇などの芸術教育運動が盛んになった。例えば、小説家の［ C ］は、雑誌『赤い鳥』を創刊し、新しい児童文学運動の展開に貢献した。

以上のような各方面での教育運動の展開の背景には、欧米諸国の新教育運動があった。例えば、［ D ］は、『児童の世紀』において、19 世紀を「女性の世紀」と位置付けたのに対して、20 世紀を「児童の世紀」と宣言した上で、子供の精神性に対する抑圧的な教育を批判し、子供の成長・発達を優先した学校改革の必要性を強調しており、同書は我が国でも抄訳・紹介された。

	A	B	C	D
1.	児童中心主義	成城小学校	鈴木三重吉	E. ケイ
2.	児童中心主義	成城小学校	渋沢栄一	I. イリイチ
3.	児童中心主義	玉川学園	鈴木三重吉	I. イリイチ
4.	注入主義	玉川学園	渋沢栄一	I. イリイチ
5.	注入主義	玉川学園	鈴木三重吉	E. ケイ

【No. **33**】 中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(令和３年１月)の内容に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

ア．GIGA スクール構想の実現として各学校においてタブレットやパソコンなどの端末を一学級につき１台整備し、子供が ICT を日常的に活用することを主たる目的とした「主体的・対話的で深い学び」に向けて授業改善を図ることとされた。

イ．「協働的な学び」として、同一学年・学級といった限られた人間関係の中で互いの感性や考え方等に触れ刺激し合うことの重要性が強調され、異学年間の学びや他の学校の子供との学び合いは集団の中で個が埋没するおそれがあるため、慎重を期することとされた。

ウ．「個別最適な学び」として、子供一人一人の特性や学習進度等に応じて指導方法や教材を柔軟に提供するなどの「指導の個別化」や、子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供するなどの「学習の個性化」が必要とされた。

エ．一斉授業か個別学習か、遠隔・オンラインか対面・オフラインかなどといった二項対立に陥らず、教育の質の向上のために、発達の段階や学習場面等により、どちらの良さも適切に組み合わせて生かしていくことが今後の我が国の学校教育の方向性として示された。

1. ア、イ
2. ア、ウ
3. イ、ウ
4. イ、エ
5. ウ、エ

【No. **34**】 我が国における薬物非行・犯罪の動向及びそれらの防止に向けた教育等に関する記述Ａ～Ｄのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

Ａ．『令和５年版 犯罪白書』によれば、大麻取締法違反の年齢層別の検挙人員の推移についてみると、20 歳代(20～29 歳)において、平成 26 年以降令和４年まで一貫して増加傾向が続いている。

Ｂ．『令和５年版 犯罪白書』によれば、覚醒剤取締法違反の検挙人員は、平成 13 年以降令和４年まで増加傾向が続いている。また、『令和５年版 再犯防止推進白書』によれば、令和３年の覚醒剤取締法違反の出所受刑者の２年以内再入者数* は、平成 29 年のそれの２倍を超えて過去最多となった。

Ｃ．学校保健安全法では、各学校は、児童生徒の発達段階を踏まえて薬物乱用防止教室の開催に関する計画を策定することと定められており、文部科学省は同教室について、中学校及び高等学校では月１回は開催し、小学校では特段の事情のない限り開催しないよう通知している。

Ｄ．厚生労働省は、薬物の再乱用防止対策として、都道府県と協力し、薬物依存症の正しい知識の普及に取り組んでいる。保健所や精神保健福祉センターにおいては、薬物依存症者やその家族に対する相談事業、家族教室が実施されている。

＊ 各年の出所受刑者のうち、出所年を１年目として、２年目(翌年)の年末までに再入所した者(前刑出所後の犯罪により再入所した者で、かつ、前刑出所事由が満期釈放等又は仮釈放の者)の人員

1. Ａ、Ｃ
2. Ａ、Ｄ
3. Ｂ、Ｃ
4. Ｂ、Ｄ
5. Ｃ、Ｄ

【No. **35**】 我が国の特別支援教育に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 文部科学省の通知* では、特別支援教育はインクルーシブ教育システムの理念を構築することを旨として行われることが重要であり、その構築に向けて、障害のある子供と障害のない子供が可能な限り同じ場で共に学ぶことを追求することも重要だとされている。
2. 学校教育法において、国は、全ての義務教育段階の学校に特別支援学級を設置しなければならないと定められている。また、同法において、特別支援学級を担任する教員は、特別支援学校教諭免許状を有していなければならないと定められている。
3. 通級による指導とは、特別支援学校の小学部・中学部に在籍している児童生徒が、一部の授業をそれぞれ小学校・中学校の通常の学級で受ける指導形態として平成 30 年度に開始されたものであるが、令和 5 年度末現在、高等学校においては開始されていない。
4. 文部科学省によると、特別支援学校数は、少子化の影響を受けて平成 25 年度から令和 4 年度にかけて減少傾向が続いている。また、令和 4 年 5 月現在の特別支援学校数を国公私立別にみると、私立が約 8 割を占めて最も多く、国公立が合わせて約 2 割となっている。
5. 特別支援学校については、実態に応じた指導内容や指導方法が特に必要であることから、学習指導要領は定められておらず、各学校が独自に編成する特別の教育課程により、児童生徒の障害に応じた特別の指導を行うことができると法令上定められている。

＊ 「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について（通知）」（令和 4 年 4 月）

【No.　**36**】　我が国におけるキャリア教育に関する記述Ａ～Ｄのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

Ａ．キャリア教育とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育をいい、キャリア発達は、個々の子供・若者でそれぞれ異なるとされている。

Ｂ．平成 29 年告示の小学校学習指導要領総則では、「特別の教科　道徳」を要としてキャリア教育の充実を図ることが示されるとともに、原則として小学校在学中に全ての児童を対象にインターンシップ（就業体験活動）を実施することとされた。

Ｃ．キャリア教育は、幼児期の教育から高等教育に至るまで体系的に進めることが必要であるとされている。また、その中心として、分野や職種にかかわらず必要な「基礎的・汎用的能力」を子供たちに確実に育成していくことが求められている。

Ｄ．キャリア・パスポートは、児童生徒のキャリア教育に関わる諸活動の学習評価のために教師が作成し記入するもので、個人情報として教師が厳重に管理して学年間・校種間で確実に引き継ぎ、調査書（内申書）に反映させるなど入学者選抜にもそのまま活用することとされている。

1. Ａ、Ｂ
2. Ａ、Ｃ
3. Ｂ、Ｃ
4. Ｂ、Ｄ
5. Ｃ、Ｄ

【No. **37**】 我が国の教育に関する法規についての記述として最も妥当なのはどれか。

1. 日本国憲法では、義務教育は無償とすると定められており、義務教育段階の学校は、国公私立を問わず授業料の徴収ができない。また、義務教育の無償の範囲には学用品費や学校給食費、修学旅行費などが含まれるが、教科書は個人負担となっている。
2. 日本国憲法では、国及びその機関は宗教教育その他いかなる宗教的活動もしてはならず、宗教に関する一般的な教養の付与も認められないと定められている。また、私立学校においても宗教教育の実施は禁止されている。
3. 教育基本法では、「学校」の範囲について、小・中・高等学校、義務教育学校、中等教育学校及び特別支援学校とすると定められており、同法において幼稚園や大学・専門学校は「学校」に含まれないとされている。
4. 教育基本法では、教育の目的について、教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならないと定められている。
5. 学校教育法では、公立の義務教育段階の学校に在学する学齢児童・生徒について、性行不良で改善の見込みがない又は学力劣等で成業の見込みがないと認められる場合、教育委員会が当該児童・生徒に対して退学の処分を行うことができると定められている。

【No. **38**】 次は、学校評価に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

文部科学省の「学校評価ガイドライン」(平成 28 年改訂)において、学校評価の実施手法は、「自己評価」、「学校関係者評価」、「 A 」の三つの形態に整理されている。

自己評価は、各学校の B が行うもので、各学校は、少なくとも C 年度間に1回は実施し、その結果を公表することとされている。

学校関係者評価は、保護者や地域住民等が自己評価の結果について評価することを基本として行うもので、各学校は、学校関係者評価を実施し、自己評価の結果・学校関係者評価の結果を D に報告することとされている。

A は、学校運営に関する外部の専門家を中心とした評価者が、学校運営の改善による教育水準の向上を主たる目的として、自己評価や学校関係者評価の実施状況も踏まえつつ、教育活動その他の学校運営の状況について評価を行うもので、学校とその設置者の責任の下で必要であると判断した場合に実施される。

	A	B	C	D
1.	第三者評価	児童生徒	1	文部科学大臣
2.	第三者評価	児童生徒	5	学校設置者
3.	第三者評価	教職員	1	学校設置者
4.	総括的評価	児童生徒	5	文部科学大臣
5.	総括的評価	教職員	5	学校設置者

【No. **39**】 次は、我が国における主権者教育に関する記述であるが、A、B、Cに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

平成27年6月に「公職選挙法等の一部を改正する法律」が成立し、選挙権年齢が [A] 以上に引き下げられた。これに伴い、国家・社会の形成者としての意識を醸成するとともに、自身が課題を多面的・多角的に考え、自分なりの考えをつくっていく力を育むことが重要とされるようになり、主権者教育の一層の推進が図られている。

主権者教育の目的は、単に政治の仕組みについて必要な知識を習得させるにとどまらず、[B] や、地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を身に付けさせることとされている。平成30年に公示された高等学校の学習指導要領では、現代社会の諸課題を捉え、その解決に向けて、社会に参画する主体として自立することや他者と協働してよりよい社会を形成することについて、考察し、選択・判断する力を育む必履修科目として「 [C] 」が新設された。

	A	B	C
1.	満16歳	社会を生き抜く力	情報
2.	満16歳	国や郷土を愛する態度	公共
3.	満18歳	社会を生き抜く力	情報
4.	満18歳	社会を生き抜く力	公共
5.	満18歳	国や郷土を愛する態度	情報

【No. **40**】 ピグマリオン効果に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. ある新奇な刺激に繰り返し接触するだけで、その刺激に対する好意的な態度が形成されるというもので、視覚や聴覚だけでなく、言語や図形から人物に至るまで広範な刺激において観察される現象をいう。
2. 入試の選抜や人事評価などの場面で、評価者が、極端に高い評価や低い評価を避け、「どちらでもない」や５段階評定における「３」の段階のように、評定尺度の中心値に集中して評価しやすくなる現象をいう。
3. 教師が、従順である児童生徒は諸能力も高いと評価してしまうなどのように、人を評価する際に、被評価者が何か好ましい特性をもっていると、他の特性に対しても好ましいと評価する現象をいう。
4. 教師が、児童生徒の能力やパフォーマンスについて、どの特性を評価するかにかかわらず、一貫して実際よりも甘い評価を行ったり、逆に一貫して実際よりも厳しい評価を行ったりする現象をいう。
5. 教師が、学業成績などの面で、児童生徒に対してある種の期待を抱くと、教師の期待が言動や態度を通じて児童生徒に影響を及ぼし、結果として児童生徒が期待どおりの成果を上げる現象をいう。

【No. **41**】 諸外国の社会保障制度に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 米国では、2010 年、いわゆる「メディケア」の根拠法となる医療制度改革法が成立し、低所得者は民間の医療保険への加入が義務付けられ、加入しない場合は罰金が科されることとなった。
2. 韓国では、国民皆保険制度は採っていないが、高齢化への対策として 2007 年に高齢者長期療養保険法が成立し、東アジア地域では日本、中国に次いで介護保険制度が導入された。
3. スウェーデンでは、介護サービスの利用には自己負担を伴うが、重度の介護を除き、自己負担上限額が定められている。この自己負担上限額は「セーフティネット」と呼ばれる。
4. 英国の医療は、税金を主な財源とする国民保健サービス(NHS)として運営されており、全国民に原則無料で提供されている。また、社会福祉サービスは地方自治体を中心に提供されている。
5. ドイツは、メルケル首相の主導の下、世界で最初に社会保険を制度化した。同国の社会保障制度は、できるだけ国家が介入するという考え方である補完性の原則に基づいている。

【No. **42**】 WHO（世界保健機関）によるICF（国際生活機能分類）に関する記述Ａ～Ｄのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

Ａ．人間の生活機能と障害について、「心身機能・身体構造」、「活動」、「参加」の三つの次元と、「環境因子」、「個人因子」というそこに影響を及ぼす背景となる因子で構成されている。生活機能は健康状態と背景因子との間の相互作用の肯定的な側面を表し、生活機能の低下を意味する障害は否定的な側面を表す。

Ｂ．人の健康の全ての側面と、ウェルビーイング（well-being）のうち健康に関連する構成要素を扱っている。つまり、対象を障害のある人だけに限らず、全ての人の健康に関して分類している。

Ｃ．回復不可能な生物学的状態である「機能障害」と、回復可能な日常生活上の問題である「能力障害」と、社会的関係の中で権利が侵害されているという「社会的不利」といった概念が明確にされた。障害は、疾患や外傷などによる身体の機能不全によって能力低下が引き起こされて生じるとしている。

Ｄ．「活動」とは生活・人生場面への関わりのことであり、「活動制限」とは個人が何らかの生活・人生場面に関わるときに経験する難しさのことである。「参加」とは課題や行為の個人による遂行のことであり、「参加制約」とは、個人が課題や行為を遂行するときに生じる難しさのことである。

1. Ａ、Ｂ
2. Ａ、Ｃ
3. Ｂ、Ｃ
4. Ｂ、Ｄ
5. Ｃ、Ｄ

【No. **43**】 次は、ソーシャルワークの用語に関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

| A | ：信頼関係のこと。ソーシャルワークでは、例えば、援助者と被援助者の間に作り上げられる相互信頼、相互理解に基づく調和のとれた関係のことなどをいう。

| B | ：社会的烙（らく）印のこと。ソーシャルワークでは、例えば、福祉サービスを利用すること自体を負い目に感じたり、サービスを受ける人を「負い目をもって当然の存在」とみたりすることなどをいう。

| C | ：父親的温情主義のこと。ソーシャルワークでは、例えば、援助者が「被援助者のため」と言いながら、援助者の思う方向で一方的に援助過程を進めていくことなどをいう。

| D | ：説明責任のこと。ソーシャルワークでは、例えば、援助者が被援助者や住民等に対し、自らの支援や結果について説明を行う責任のことなどをいう。

| E | ：復元力や回復力のこと。ソーシャルワークでは、例えば、重大な逆境に遭遇したにもかかわらず、前向きに適応していく力、あるいはその現象のことなどをいう。

	A	B	C	D	E
1.	ピアサポート	レスパイト	ペアレンティング	アカウンタビリティ	レジリエンス
2.	ピアサポート	スティグマ	パターナリズム	コンプライアンス	イネイブリング
3.	ラポール	レスパイト	パターナリズム	コンプライアンス	イネイブリング
4.	ラポール	スティグマ	ペアレンティング	コンプライアンス	レジリエンス
5.	ラポール	スティグマ	パターナリズム	アカウンタビリティ	レジリエンス

【No. **44**】 我が国における住宅の維持・確保に困難を抱える者に対する支援に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 生活保護法上の保護施設は、救護施設、医療保護施設、授産施設及び宿所提供施設の４種類があり、これらの施設に入所した者に対して生活扶助は行われない。
2. 社会福祉法に基づく無料低額宿泊所は、生計困難者のために、無料又は低額な料金で簡易住宅を貸し付け、又は宿泊所その他の施設を利用させる事業として設置される施設である。
3. 社会福祉法に基づく生活福祉資金貸付制度において、住宅入居費は 100 万円を限度額として貸付けが可能であり、貸付けに当たって連帯保証人は不要かつ無利子である。
4. 生活困窮者自立支援法に基づく生活困窮者住居確保給付金の支給期間は６か月であるが、一定の要件を満たす場合には、申請により、６か月ごとに３年までの範囲内で延長することができる。
5. 生活保護法における住宅扶助の範囲は住居及び補修その他住宅の維持のために必要なものであり、福祉事務所が認めた場合には特別基準額を超える家賃等の支給が可能であるが、転居に係る敷金等は支給されない。

【No. **45**】 次は、ソーシャルワークにおけるアウトリーチに関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

○ アウトリーチとは、要支援者から自発的な援助要請がない場合、あるいはニーズが自覚されていない場合に、援助機関が [A] を行い、その問題解決に向けた動機づけ及び具体的な専門的援助を持続するアプローチのことである。

○ 生活上の問題を抱えていても、自ら援助を求めてこない人を [B] クライエントという。[B] クライエントには、援助を受けることの意味や意義を理解していない場合や、援助を受けることに拒否や反発などのマイナスの感情をもっている場合があると考えられる。

○ ケース発見を促進するための方法として広報活動がある。サービスの内容や効果、あるいは相談機関や申込み先を様々な方法で知らせていくという取組によって、サービス供給システムへの [C] が促進される。

○ 厚生労働大臣により委嘱された [D] や地域住民等から相談がもち込まれることでケース発見に至る場合があるため、ソーシャルワーカーは、こうした人たちから相談がもち込まれやすいように、日頃から関わりをもち、信頼関係の構築に努めていく必要がある。

	A	B	C	D
1.	積極的介入	インボランタリー	アクセシビリティ	民生委員
2.	積極的介入	インボランタリー	バルネラビリティ	行政相談委員
3.	積極的介入	ボランタリー	アクセシビリティ	行政相談委員
4.	送致(リファー)	インボランタリー	アクセシビリティ	民生委員
5.	送致(リファー)	ボランタリー	バルネラビリティ	行政相談委員

【No. **46**】 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス等に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 就労移行支援は、通常の事業所に雇用されることが困難な障害者に対して、就労の機会や生産活動等の機会を提供することによって、就労に必要な知識や能力の向上を図る訓練等を行うもので、利用期間は定められていない。
2. 自立支援医療は、身体障害者を対象とした更生医療と精神障害者を対象とした精神通院医療の二つの支援内容で構成されている。これらを利用することで、心身の障害を除去・軽減するための医療について、所得にかかわらず医療費の自己負担額が１割に減免される。
3. 自立訓練は、身体障害者の身体機能・生活能力の維持・向上などのために行われる機能訓練と、知的障害者と精神障害者の生活能力の維持・向上などのために行われる生活訓練とに分けられる。どちらも利用期間は定められておらず、機能訓練においては夜間や宿泊を通じた訓練の実施が可能である。
4. 同行援護は、移動に必要な情報を提供するとともに移動の援護等を行うものであり、歩行障害により移動に著しい困難を有する者のほか、知的障害又は精神障害により行動上著しい困難を有する者が対象となる。
5. 地域相談支援は、地域移行支援と地域定着支援から成る。地域移行支援の対象は、障害者支援施設等に入所している障害者や精神科病院等に入院している精神障害者等であり、刑務所、少年院等の矯正施設や更生保護施設に入所している障害者も含まれる。

【No. **47**】 我が国の福祉計画に関する記述Ａ～Ｄのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

Ａ．地域福祉計画は地域再生法に規定されている。同法には、市町村地域福祉計画の策定に際して地域住民等の意見を反映させる努力義務規定があるが、都道府県地域福祉支援計画の場合には、住民その他の者の意見を反映させる努力義務規定はない。

Ｂ．子ども・子育て支援事業計画は子ども・子育て支援法に規定されている。市町村子ども・子育て支援事業計画においては、産後の休業及び育児休業後における特定教育・保育施設等の円滑な利用の確保に関する事項について定めるよう努めるものとされている。

Ｃ．介護保険法に規定されている市町村介護保険事業計画及び都道府県介護保険事業支援計画は、老人福祉法に規定されている市町村老人福祉計画及び都道府県老人福祉計画と、それぞれ一体のものとして作成されなければならない。

Ｄ．障害者基本計画は障害者総合支援法*1に規定され、障害福祉計画は障害者差別解消法*2に規定されている。市町村障害福祉計画は、こども家庭庁設置法に規定されている市町村障害児福祉計画と一体のものとして作成することができる。

＊1　障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律

＊2　障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律

1. Ａ、Ｂ
2. Ａ、Ｃ
3. Ｂ、Ｃ
4. Ｂ、Ｄ
5. Ｃ、Ｄ

【No. **48**】 我が国の成年後見制度に関する記述として最も妥当なのはどれか。

なお、データは最高裁判所事務総局家庭局「成年後見関係事件の概況－令和４年１月～12 月－」による。

1. 成年後見制度は、法定後見制度と任意後見制度とに大別され、法定後見制度は、本人の判断能力の程度に応じて、「補助」、「保佐」、「後見」の三つの類型によって構成されている。令和４年12 月末日時点における利用者数は、三つの類型別で「補助」が最も多く、「後見」が最も少なかった。
2. 成年後見人は、財産管理についての同意権及び取消権という権限を付与されており、成年被後見人が成年後見人の同意なく日用品の購入その他日常生活に関する行為をした場合、成年後見人は取消権を行使してその行為を取り消すことができる。
3. 法定後見の開始の審判は、本人の住所地を管轄する簡易裁判所に対する申立てによって行われる。申立てに当たり、法定後見を受けようとする本人は十分な判断能力がないと考えられるため、申立人となることはできない。
4. 成年後見制度の利用が必要であるが、身寄りがないなどの理由で申立てをする人がいない場合、本人の福祉を図るため特に必要があると認めるときには、市区町村長に法定後見の開始の審判の申立権が与えられている。令和４年に終局した成年後見関係事件の申立人と本人との関係別の割合は、申立人として、親族以外では市区町村長が最も高かった。
5. 成年後見人として選任できるのは原則として社会福祉士、司法書士、弁護士等の資格を有する者であり、資格を有しない者は対象とならないが、必要な研修を受けた親族であれば資格を有していなくても選任が可能である。

【No. **49**】 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に基づく入院形態に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 任意入院は、本人及びその家族等の同意に基づいて行うものであり、その退院については、家族等の同意があれば行うことができる。
2. 措置入院は、都道府県知事又は指定都市の長の決定によって行うものであり、その措置の解除についても同様である。
3. 緊急措置入院は、精神科病院の管理者の決定によって行うものであり、その入院期間については、48 時間以内に制限される。
4. 医療保護入院は、地方裁判所の決定によって行うものであり、その退院については、保護観察所の長に意見を求めなければならない。
5. 応急入院は、保健所長の決定によって行うものであり、その入院期間については、24 時間以内に制限される。

【No.　**50**】　我が国の福祉の現状に関する記述として最も妥当なのはどれか。

なお、データは『令和５年版 厚生労働白書』による。

1. ひきこもりに特化した専門的な相談窓口として全ての都道府県と指定都市に設置されている「ひきこもり地域支援センター」における、令和３年度の年代別（10 代以下、20 代、30 代、40 代、50 代以上、年齢不明）の相談実人数は、年齢不明を除き、20 代が最も多く、50 代以上が最も少ない。
2. 令和２年度及び３年度の「厚生労働省子ども・子育て支援推進調査研究事業」における「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」によると、世話をしている家族が「いる」と回答した者のうち、世話を必要としている家族の内訳の割合は、小学生、中学生及び高校生は「父母」（母親及び父親）が最も高く、大学生については「きょうだい」が最も高い。
3. 生活困窮者住居確保給付金の申請件数の変化についてみると、令和２年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等で前年度の約 34 分の１の件数まで大幅に減少し、令和３年度は更に減って令和２年度の２分の１以下の件数であった。
4. 障害者雇用率制度について、一般事業主の法定雇用率は、平成 30 年４月には 2.3 % から 2.5 % に、令和３年３月には 2.6 % に引き上げられており、令和５年度以降は国及び地方公共団体等の公務部門と同一の法定雇用率 3.0 % に設定されている。
5. 令和４年６月１日現在の民間企業における障害者雇用状況について、雇用障害者数は年々増加を続け、過去最高を更新した。障害種別では特に身体障害者の前年比伸び率が最も高い。一方、精神障害者は、その伸び率は前年比で低下しているものの、雇用障害者数は、身体障害者、知的障害者を上回って最多であった。

【No.　**51**】　18・19 世紀の社会理論に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. J. J. ルソーは、人々が自然権を無制限に行使すると、「万人の万人に対する戦い」が生じるため、人々は契約を結んで自然権を国家に譲渡するとした。そして、この強大な権力をもつ国家（リヴァイアサン）によって、平和的な社会秩序が保たれるとした。
2. C. H. サン＝シモンは、個人が自分の利益を自由に追求していれば、「見えざる手」に導かれて経済が活性化し、社会全体が豊かになると考えた。それを踏まえて、社会の安定には、「自由放任（レッセ＝フェール）」が重要であるとした。
3. A. コントは、人間の知識は、神学的段階から形而上学的段階を経て実証的段階に至るという「三段階の法則」を提起した。そして、フランス革命によって荒廃した社会秩序を回復するという課題に対して、実証的段階にふさわしい社会理論である「社会学」を構想した。
4. K. マルクスは、労働者の自己疎外の原因は、生産手段が共有化された共産主義という社会の仕組みにあると考え、資本家階級（ブルジョワジー）が一致団結し、労働者階級（プロレタリアート）との階級闘争に勝利して、資本主義社会を打ち立てるべきだと主張した。
5. H. スペンサーは、社会進化論（社会有機体論）の立場から、社会の統合を保つための人々の連帯の在り方を考察し、相互に類似した個人が機械的に結び付く機械的連帯から、個人が自らの個性を生かしながら分業によって結び付く有機的連帯へと進化するとした。

【No.　**52**】　集団類型論のうち、W. G. サムナーが論じた内容に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 集団を結合の性質により分類し、全人格的な信頼などによる離れ難い結合の在り方を「ゲマインシャフト」と呼び、利害の打算など人格のごく一部のみによる結合の在り方を「ゲゼルシャフト」と呼んだ。
2. 集団を成立の契機により分類し、共通の血縁や地縁に基づいて自生的に成立する集団を「生成社会」と呼び、類似の目的や特定の活動のために人為的に作られる集団を「組成社会」と呼んだ。
3. 集団を関心の概念により分類し、共同関心に基づいて成立し共同生活が営まれる一定の領域を「コミュニティ」と呼び、これを基盤として特定の関心を追求するために意識的に形成される集団を「アソシエーション」と呼んだ。
4. 集団を社会的紐帯の内容や機能により分類し、血縁や地縁といった基礎的紐帯によって結合する社会を「基礎社会」と呼び、類似や利益といった派生的紐帯によって結合する社会を「派生社会」と呼んだ。
5. 集団を個人又は集団的主体の意識により分類し、ある個人が「われわれ」という共属感をもつ集団を「内集団」と呼び、「かれら」としか意識されず敵意の対象ともなる集団を「外集団」と呼んだ。

【No. **53**】 自我や自己に関する理論のうち、G. H. ミードが論じた内容についての記述として最も妥当なのはどれか。

1. 自我は、欲望を追求しようとするイド(エス)の衝動と、理想と規範とを強制する超自我の厳格さとの間でバランスをとる機能をもつとした。
2. 自我を、「一般化された他者」の態度を内面化して形成される me(客我)と、それに創発的に反応する I(主我)との相互作用のプロセスとして捉えた。
3. 青年期の課題として、アイデンティティ(自己同一性)の確立を挙げるとともに、それが社会的に猶予される時期をモラトリアムと呼んだ。
4. 他者に対して呈示されるものとして自己を捉え、期待されている役割を遂行しつつ、それに対する乖(かい)離を同時に表現するテクニックを、「役割距離」という概念で表した。
5. 自己がそれを位置付ける安定した枠組みを失い、自己とは何かを常に問い続けなければならないという事態を、「自己の再帰的プロジェクト」と呼んだ。

【No. **54**】 E. ゴフマンの学説に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 『消費社会の神話と構造』を著し、現代の消費社会においては、人々の消費が、モノの記号性に向けられた行為としての「記号の消費」から、モノの機能的な使用・所有へと変質したと指摘した。
2. 人々の相互作用のうち心的相互作用に着目し、これは二者間では生じず多数の人々から成る集団にのみ見られるものだと指摘するとともに、社会を社会たらしめるものは、経済、政治、宗教といった形式であるとして、これらを研究対象とする「形式社会学」を提唱した。
3. 自明のものとして行われる日常生活ではなく、非日常の場面に焦点を当てる研究方法としてエスノメソドロジーを打ち立て、会話の中で相手の言葉に全て反対意見を表明して相手の反応を分析する「違背実験」を展開した。
4. 人々の日常の相互行為には、その秩序を維持するための工夫として、自分と他者双方の体面を保護するための儀礼的な要素が存在しているとし、その一例として、たまたま居合わせた人々が相手の存在を認めつつ、過度の関心を示さないようにする「儀礼的無関心」を挙げた。
5. 世界を「中核」、「半周辺」、「周辺」の三層構造と捉える世界システム論を唱え、資本主義社会においては、富が中核から半周辺や周辺へと分配され、世界的な不平等が解消されていくと述べた。

【No. **55**】 次は、逸脱行動の理論に関する記述であるが、A、B、Cに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

犯罪や非行をはじめとする逸脱行動に関する社会学的な説明理論には、緊張理論、統制理論(コントロール理論)、学習理論、ラベリング理論などがある。このうち、[A] の統制理論はボンド理論とも呼ばれ、「[B]」という問いを設定し、人々を逸脱させない統制力、すなわち人々を社会につなぎとめる力をボンドと表現した。

そして、[A] はこのボンドの要素を、「愛着(attachment)」、「投資(commitment)」、「巻き込み(involvement)」、「信念(belief)」の四つに分類し、このうち「[C]」については、逸脱行動に従事する時間が見いだせないほど、スポーツや勉強といった健全な活動に時間をとられて多忙な状態を示すものであるとしている。

	A	B	C
1.	T. ハーシ	人はなぜ逸脱しないのか	巻き込み(involvement)
2.	T. ハーシ	人はなぜ逸脱しないのか	信念(belief)
3.	T. ハーシ	人はなぜ逸脱するのか	信念(belief)
4.	R. K. マートン	人はなぜ逸脱しないのか	信念(belief)
5.	R. K. マートン	人はなぜ逸脱するのか	巻き込み(involvement)

【No. **56**】 組織や社会に関する理論についての記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

ア．P. ブルデューは、大衆社会論を展開するに当たって、「エリートへの接近可能性」と「非エリートの操縦可能性」という要因を抽出し、それぞれの高低の組合せによって四つの社会類型を設定した。このうち、これら二つの要因がいずれも低い類型を「大衆社会」とした。

イ．M. ヴェーバーは、民主主義の実現を目指す社会主義政党を研究対象とし、国家が民主主義、社会主義、共産主義のいずれであるかを問わず、集団や組織は多数者による少数者の支配を必然とするという「寡頭制の鉄則」を唱えた。

ウ．G. E. メイヨーらは、ホーソン工場で行われた一連の研究を通じて、インフォーマル・グループの意義を見いだし、作業能率や生産性は、人間関係や各作業者の労働意欲などと密接な関係があることを明らかにした。

エ．C. W. ミルズは、国家的影響を及ぼすような決定に参与しているエリート集団である「パワー・エリート」について、政治・経済・軍事という三つの制度的秩序の頂点に立って支配的地位を占めている人々であると特徴付けた。

1. ア、イ
2. ア、ウ
3. ア、エ
4. イ、エ
5. ウ、エ

【No. **57**】 次は、N. ルーマンの理論に関する記述であるが、A、B、Cに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

N. ルーマンは、生物学の用語で、生体システムが、その構成要素のネットワークを通して、構成要素を継続的に再生産している事態を指す [A] という概念を、自身の社会理論に導入した。

そして、社会は、その構成要素である [B] が次々と接続していく自己準拠的(自己言及的)な過程を通じて形成されるとする [C] を展開した。

	A	B	C
1.	オートポイエーシス	コミュニケーション	文化的再生産論
2.	オートポイエーシス	コミュニケーション	社会システム論
3.	オートポイエーシス	行為	文化的再生産論
4.	ホメオスタシス	コミュニケーション	文化的再生産論
5.	ホメオスタシス	行為	社会システム論

【No. **58**】 我が国における犯罪被害者をめぐる動向等に関する記述Ａ～Ｄのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

なお、データは『令和５年版 犯罪白書』による。

Ａ．人が被害者となった刑法犯の認知件数について、その推移（最近30年間）をみると、平成14年を底として、それ以降増加し続け、令和４年には、平成14年の10倍を超えている。

Ｂ．人が被害者となった刑法犯の認知件数について、主な罪名別*にみると、令和４年では「窃盗」が最も多い。

Ｃ．刑事事件の被害者等が刑事裁判に参加できる被害者参加制度では、被害者等が同制度を利用しやすいよう、対象事件に制限は設けられていない。

Ｄ．令和４年に刑法等の一部を改正する法律が成立し、刑事施設や少年院において、被害者等の心情等を聴き取って受刑者や少年院在院者に伝達する制度が設けられた。

＊ 「殺人」、「強盗」、「強制性交等」、「暴行」、「傷害」、「脅迫」、「恐喝」、「窃盗」、「詐欺」、「横領」、「強制わいせつ」、「略取誘拐・人身売買」の別

1. Ａ、Ｂ
2. Ａ、Ｃ
3. Ｂ、Ｃ
4. Ｂ、Ｄ
5. Ｃ、Ｄ

【No. **59**】 次は、我が国における若者論に関する記述であるが、A、B、Cに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

○ 学生運動が衰退した後の 1970 年代に青年期を迎えた世代は、誠実さや本気といった態度を拒否し、政治をはじめ、あらゆる事に感動・関心を示さないという特徴をもっているとされ、[A] と呼ばれた。

○ 1980 年代のいわゆるバブル時代の若者は、新たなメディア機器を使いこなし、膨大な情報を高度な感性をもって適切に選択し、消費によって他者との差異化を図ることで自己実現を達成する人間像としてイメージされ、[B] と呼ばれた。

○ 1980 年代後半には、特定の分野や物事には異常なほど熱中する一方で、そのほかへの関心が薄く、世間との付き合いに疎い若者は [C] と呼ばれるようになったが、現在ではこれは、広く、特定の趣味に熱中している人を指す言葉となっている。

	A	B	C
1.	シラケ世代	ゆとり世代	オタク
2.	シラケ世代	ゆとり世代	パラサイト・シングル
3.	シラケ世代	新人類	オタク
4.	団塊の世代	ゆとり世代	パラサイト・シングル
5.	団塊の世代	新人類	パラサイト・シングル

【No. **60**】 調査票における質問項目の作成等に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

ア．質問の意図や内容を回答者が理解できるように、曖昧な用語や一般的でない専門用語はできるだけ使わない方がよいとされる。また、特定の価値基準を伴うステレオタイプ化した用語は、回答に歪みを生じさせるおそれがあるため、使わない方がよいとされる。

イ．例えば、「あなたは、少年犯罪が増加して凶悪化していると思いますか。」といった質問のように、一つの質問文に二つ以上の論点を含むために、回答者に混乱を生じさせる可能性がある質問をダブルバーレル質問という。

ウ．例えば、A県における交通事故死亡者数の多さに関する質問の後に、A県への居住希望に関する質問をするといったように、前の質問が後の質問に対する回答に影響を与えることを黙従傾向(イエス・テンデンシー)という。

エ．一般に、回答者の回答意欲は時間とともに低下するため、回答しにくいと思われる質問や複雑な質問はできるだけ調査票の冒頭に置いた方がよいとされる。また、一度の調査でより多くの情報を得るため、質問数はできるだけ多い方がよいとされる。

1. ア、イ
2. ア、エ
3. イ、ウ
4. イ、エ
5. ウ、エ

U2－2024　専門多肢

正答番号表

No	正答	No	正答	No	正答
1	2	**21**	3	**41**	4
2	2	**22**	3	**42**	1
3	1	**23**	4	**43**	5
4	5	**24**	5	**44**	2
5	5	**25**	3	**45**	1
6	1	**26**	2	**46**	5
7	5	**27**	2	**47**	3
8	4	**28**	1	**48**	4
9	4	**29**	1	**49**	2
10	3	**30**	4	**50**	1
11	1	**31**	3	**51**	3
12	2	**32**	1	**52**	5
13	3	**33**	5	**53**	2
14	4	**34**	2	**54**	4
15	4	**35**	1	**55**	1
16	3	**36**	2	**56**	5
17	2	**37**	4	**57**	2
18	1	**38**	3	**58**	4
19	5	**39**	4	**59**	3
20	5	**40**	5	**60**	1